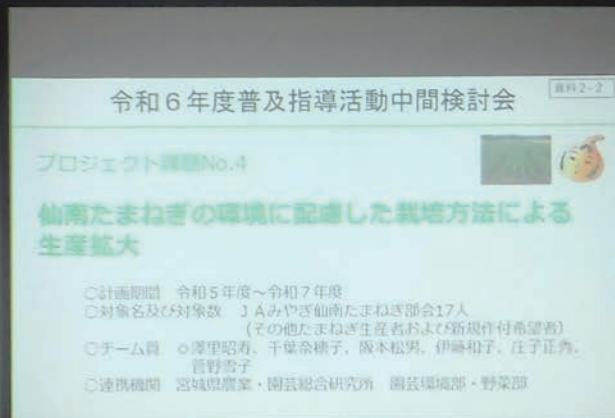


大河原農業改良普及センターだより

麦わらぼうし



【撮影地：村田町 令和6年9月3日】

第1回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました。

普及センターでは、普及活動を計画的かつ効果的に推進するため、農業者や関係団体等の外部委員（普及活動検討委員）からご意見をいただく「大河原地域農業改良普及活動検討会」を開催しています。

令和6年9月3日に開催した第1回検討会では、普及センターが重点的に取り組むプロジェクト課題等についてご検討いただき（表紙写真）、「とうもろこし抑制栽培」の現地ほ場を視察（表紙写真丸枠内）していただきました。

普及センターでは、今回のご意見を今後の普及活動に活かし、地域に貢献できる普及活動を行っていきます。

令和6年度 普及センター重点課題の取組

1 新たな担い手の確保・育成と女性活躍支援

農業の担い手が減少する中、新規就農者等の新たな担い手の確保や、青年農業者、地域農業を支える女性の育成が重要となっています。普及センターでは、青年農業者が組織する仙南4Hクラブの資質向上に向けた研修や先進地視察、仙南マルシェを通じた消費者との交流等の活動を支援しています。

今年度は、管内の先進農家である有限会社半澤牧場の代表取締役社長である半澤善幸氏を講師に招き、先輩経営者の話を聞く研修会を開催しました。

今後は、4Hクラブ会員が興味を持っている農産加工の知識を深めるため、名取市の委託加工業者等への視察研修や宮城県大河原産業高等学校との連携活動を行う予定です。



【仙南マルシェの様子】

令和6年9月25日(水)に、大河原合同庁舎にて、仙南地域の特色あふれる農林産物等の販売会が行われました。

2 地域農業の維持・発展に向けた地域及び組織育成支援

仙南地域では「地域計画」の作成や、農地整備事業への取組により、地域の担い手の選定と農地の集積・集約化の動きが加速しています。普及センターでは、地域の農地を担う新たな土地利用型農業法人の設立や設立された法人の経営安定化について支援を行っています。

支援対象の1つである「株式会社舘島田ファームDero (デロ)」は、令和6年1月に農事組合法人舘島田生産組合から事業継承を受けた法人です(写真)。普及センターでは引き続き、関係機関や各種専門家の協力を得ながら、新法人の経営が早期に軌道に乗るよう支援を行っています。



【専門家派遣による法人への指導】

3 園芸振興を牽引する重点園芸作物の生産推進

仙南地域の特色ある園芸産地を目指し、普及センターでは重点園芸作物として「いちご」「ブロッコリー」「生食用ぶどう」の生産振興に取り組んでいます。中でもぶどうは、近年のシャインマスカット人気や初心者でも取り組みやすい「短梢せん定仕立て」の普及もあり、年々生産者が増加しています。

生産者の栽培技術の早期習得と技術レベルの平準化を目指し、普及センターでは、摘粒方法やせん定等の基幹作業について、各種講習会を通して技術取得に向けた支援を行っています。



【ぶどうの摘粒方法を学ぶ生産者】

4 新しい地域特産品の創出に向けた支援

七ヶ宿町に、新規就農後に法人化し、自社畑で生産した醸造用ブドウを原料としたワイン製造に取り組み、また、管理者不在となった果樹園を借り受け、そこで生産したリンゴを原料にしたシードル製造等の活動を行っている法人がいます。現在法人では、醸造については外部に委託していますが、将来的には自社の醸造所を建設し、こだわりのワイン等の製造を目標にしています。醸造所が建設・稼働すれば、新たな地域資源、特産品の創出につながる事が期待されることから、普及センターでは関係機関と連携しながら、支援を進めています。



【醸造用ブドウの栽培の様子】

5 耕畜連携の推進

飼料用作物の作付面積が増加する中、飼料用米専用品種や飼料用稲への作付け転換、畜産堆肥活用のニーズが高まっています。そこで、普及センターでは、管内での作付面積が多い多収品種「ふくひびき」の種子生産に関する技術支援や、飼料用稲「リーフスター」の生産・利用定着支援のための現地検討会の開催、畜産堆肥活用のための取組を通じて、耕畜連携の推進に取り組んでいます。

7月17日に開催された「ふくひびき」現地検討会では、葉耳間長や幼穂長から出穂時期を予測し、適切な刈取り時期について生産者と検討を行いました。

飼料用稲「リーフスター」については、6月7日、7月5日に現地検討会を開催し、耕種農家に情報提供等を行いました。

畜産堆肥活用については、県内の堆肥センターにおける聞き取り調査や豚ふん堆肥を活用した単収増加と肥料費抑制の同時実証に取り組んでいます。



【飼料用稲「リーフスター」】

6 中山間地域におけるスマート農業導入効果

七ヶ宿町では、令和4年度に県の補助事業が活用され、町役場にR T K基地局が整備されました。それに伴い、町内の農事組合法人でドローンや自動操舵農機が導入・活用されています。

将来的な人手不足が見込まれる農業現場では、このようなスマート農業機械が今後必須になると予想されます。そこで、普及センターでは、スマート農業機械を導入した後にどの程度労務改善効果が期待できるのか検証し、中山間地域における大規模営農モデルに繋がるよう支援を行っています。

今年度は、水稻作の代かき作業でスマート農業機械を活用している農業法人と協力し、自動操舵技術を活用した場合の身体への負担軽減効果を、筋電図解析システムを用いて測定することで、その効果を検証しました。



【自動操舵の様子】

トピックス

宮城県なし現地検討会が開催されました！

6月28日に、宮城県園芸協会主催の令和6年度宮城県なし現地検討会が蔵王町で開催されました。この現地検討会では、県内のなし生産者や関係者約100人が一堂に会し、なしの省力栽培や気候変動への対応などについて検討が行われました。

当日は2部構成で行われ、午前はジョイント栽培に取り組んでいる蔵王町内のなし園2か所の視察、午後はジョイント栽培に関する講演や近年の気候変動の影響について情報交換が行われました。



【現地検討会の様子】

お知らせと話題

だて正夢の栽培塾を開催しました

管内における「だて正夢」の高品質・収量安定化に向け、7月17日に「だて正夢地域栽培塾」を蔵王町で開催しました。地域栽培塾では、今年の「だて正夢」の生育状況や気象経過に基づいた栽培管理のポイントについて説明したほか、実証水田の幼穂長を確認し、追肥時期の判断や出穂期の予測を行いました。

今後も、おいしい「だて正夢」を消費者の皆様へ届けられるよう、生産者と共に生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図って参ります。



【だて正夢地域栽培塾】

「みやぎの雑草防除ポータル」を紹介します。

宮城県が公開している「みやぎの雑草防除ポータル」では、県内の農耕地における雑草防除に関する情報を提供しています。また、水稻作・大豆作・麦作における主要雑草を写真付きで解説しています。

「みやぎの雑草防除ポータル」

へのリンクはこちらです。



発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
 電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
 e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
 H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

